

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例集

山梨県教育委員会 高校教育課



- ◆P 2～P 9 国語科
- ◆P 10～P 11 地理歴史科
- ◆P 12 公民科
- ◆P 13～P 14 数学科
- ◆P 15～P 16 理科
- ◆P 17 保健体育科
- ◆P 18～P 19 外国語科
- ◆P 20～P 22 家庭科
- ◆P 23 情報科
- ◆P 24～P 26
総合的な学習の時間
- ◆P 27～P 29
その他（学校設定教科等）

国語

- 北杜高校(国語総合)
- 甲府南高校(国語総合)
- 甲府東高校(国語総合)
- 増穂商業高校(国語総合)
- 中央高校(国語総合)
- 韮崎工業高校(国語表現)
- 笛吹高校(国語表現)
- 白根高校(現代文B)
- 中央高校(現代文B)
- 甲府東高校(古典B)
- 市川高校(古典B)
- 都留高校(古典B)
- 富士北稜高校(学校設定科目)
- 中央高校(学校設定科目)

北杜高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「国語総合」1学年
- 単元名：読書の魅力を伝える ビブリオバトル
- 学習目標：
 - ・各自が選んだ本について、その魅力やお薦めの理由などを5分間で分かりやすく伝える。
 - ・仲間のプレゼンを聞いて、各自の読書を広げる契機とする。
- 授業内容：
 - ・冬休みの読書の中から、皆に薦めたい本を持ち寄り、5～6人のグループでビブリオバトル(プレゼン5分・質疑応答2分)を行ってチャンプ本を選ぶ。話す力を養うとともに、各グループのチャンプ本を皆に紹介することにより、さらに読書の幅を広げることができるとよいと考えた。

成果・効果

- ・教室での実施も可能だが、図書館の**広い机の方が互いの顔を見ながらでき、雰囲気もビブリオバトルにふさわしい中で実施できた。**
- ・予め冬休みの課題として、読書と本の選定を課しておいたので休み明けにスムーズに実施できた。
- ・生徒にとっては読書感想文よりもハードルが低く、紹介本を借りる等、**新たな読書の契機となっている。**



課題

- ・5分のプレゼン時間を持ってあまってしまう生徒も見られたので、事前に練習する機会が必要か。
- ・「話すこと」の評価の観点とチャンプ本選定とは必ずしも一致しないので、その見取りをどうするかが難しい。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

甲府南高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「国語総合」1学年
- 単元名：表現「贈りたい本」（話し合いをする—ビブリオバトル）
- 学習目標：
 - ・自ら選んだ本を紹介し合うことで互いの価値観を理解し合う。
 - ・興味深い本と出会うことで読書の習慣を養う。
 - ・発表者として、聴講者としての双方で積極的に場に貢献する。
- 授業内容：（実施時数 5時間）
 - ・「誰に」「どんな本を薦めるか」を考えながら、本を探し、「おすすめポイント」をまとめ、発表する。
 - ・発表を聞いて、読みたくなった本や、興味を持ったポイントなどについて、グループに分かれて、感想を述べ合う。

成果・効果

- ・場の共有をすることで、相互理解をし自らの価値観に刺激が得られた。
- ・他者の意外な一面を発見できた。
- ・クラスメイトの前で発表して、聴講者の反応をみながら、工夫できた。
- ・聴講者として、発表者の立場に立って意図を理解しようと努めた。



課題

- ・映像化された本や、話題になった本は人気があり、複数の生徒が選ぶため、発表の差別化が難しい。
- ・時間に限りがあるので、質疑応答の時間がゆっくり取れない。

甲府東高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「国語総合」1学年
- 単元名：
 - 平仮名はどんな役割を持っていたのだろうか
 - 土佐日記と当時の一般的な日記の違いはなんだろうか
- 学習目標：
 - ・平安時代の男性と女性の日記を読み比べ、内容や表記の違いに気付く。
 - ・紀貫之が女性に仮託して平仮名で土佐日記を書いた理由を考える。
- 授業内容：
 - 平安時代の男女の日記に実際に触れ、内容を読み解くことで、紀貫之がなぜ平仮名を用い、女性に仮託して日記を書いたのかについて、生徒がそれぞれ考え、意見としてまとめる。

成果・効果

- ・実際の資料に触れることで、「調べる」ことの本来的なありかたを生徒が実体験として得ることができた。
- ・図書館ではあらかじめ他館から資料を借りてくださっていたため、難しい古典の日記も漫画などの読みやすい資料があり、内容把握が助けられた。
- ・他のチームに成果を持ち帰らなければならないため、生徒自身も一生懸命取り組めた



課題

- ・本校は1学年のみで実施しているTT（チームティーチング）の形態でなければ取組が難しい。（40名全員が同じ形で座れない）
- ・同じ女性の日記でも難易度が違うため、生徒の士気に差がでる。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

増穂商業高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「国語総合」2学年
- 単元名：軍記物語「平家物語」
- 学習目標：
 - ・作品の中に出てくる地名を確認し、どのような場所であったのか具体化し、主人公の移動距離などを地図上で確認する。
 - ・作品の中に出てくる地名と都との位置関係を確認する。
 - ・馬具や鎧などの細部の名称を確認し視覚的に理解する。
 - ・上記を通して文章に書かれている内容の理解を深める。
- 授業内容：
 - ・「木曾」、「北陸道」、「打出の浜」、「栗津の松原」、「鎌倉」、「東国」といった地名に関係する図書資料を図書館内で探し、その場所が持つ意味を具体的にイメージする。
 - ・都との位置関係を地図上で理解し、主人公や従者の心情を理解する。
 - ・作品に出てくる戦いの描写を、正確に理解する。

成果・効果

- ・地図や絵図を見ることで、当時の「木曾」、「鎌倉」、「東国」といった場所が、都からみてどのような場所であったのかを、**具体的にイメージできた。**
- ・地図を見ることで、都との位置関係を理解し、物語の背景にあるものを理解することができた。
- ・都と「打出の浜」の位置関係を理解することで、義仲が近江まで逃げ落ちてきた目的を理解できた。

課題

- ・資料内容等についての説明に、時間がかかりすぎた。

中央高等学校

取組の内容

- 教科「科目」・対象：国語「国語総合」1学年
- 単元名：ビブリオバトル
- 学習目標：
 - ・図書館の絵本を対象として、たくさん読む（鑑賞）。
 - ・限られた時間の中で内容を要約し、聴者の読書欲を掻き立てるように発表する。
 - ・他者の発表をじっくり聞き、評価の体験をする。
- 授業内容：
 - 一般に行われているビブリオバトルの図書を絵本に限定して行う。発表者が読んで面白かった本を1人3分間で発表し、全員の発表の後、参加者全員で「どの本が一番読みたくなったか?」という視点で優秀者を選ぶ。

成果・効果

- ・紹介本を**図書館の絵本**に限定して行うことで読書が苦手な生徒も気楽に参加できた。
- ・人前で発表することが苦手な生徒も、平易な内容の**絵本**を選んだことで、内容をよく理解し、他者に分かりやすく発表できた。
- ・**図書館の空間が教室と違い、言語活動の場として適していた。**
- ・図書館に授業で滞在する時間が、読書への誘いとなった。



課題

- ・発表があらすじに終始してしまう生徒が見られるなど、他者の読書欲を掻き立てる発表は難しい。さらに実施回数を増やしていきたい。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

韭崎工業高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「国語表現」3学年
- 単元名：メディアと情報
- 学習目標：同じニュースや出来事について**複数のメディアを比較**し、その情報の違いに気づくとともに、**メディアの特性**や情報の**送り手の意図**を理解する。

➢ 授業内容：班ごとに**異なる新聞**を用いてその日のトップニュース、二面以降の関連記事、社説等を読み比べる。特に社説については**新聞社の姿勢の違い**に注目する。



成果・効果

日本人のノーベル賞受賞、アメリカ中間選挙、沖縄米軍の辺野古移転問題、消費増税など、大きな問題について新聞に触れることで**社会的関心を喚起**することができた。また、メディアによって同じ出来事でも報道の仕方が違うことを知り、**編集された情報の受け取り方**を学んだ。



課題

- ・自宅で新聞を購読していない生徒もいるため、図書館の新聞等を用いた**継続的な学習**が望まれる。
- ・**地歴公民科や総合的な学習の時間等との連携**でより大きな効果が期待できる。

笛吹高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「国語表現」3学年
- 単元名：表現の実践(一) 紹介文・宣伝文を書く
- 学習目標：
 - ・自分の学校の学科や行事についての紹介ポスターを作成し、全体の前で紹介し、魅力をアピールする。
 - ・発表について、優れた点や改善点について意見を述べ合う。
- 授業内容：

果樹園芸科の紹介または学校行事であるフェスタ笛吹の魅力を外部的の人に伝える為の紹介文とポスターを作成し、全体の前で発表する。発表とポスターについて、良い点やもっと工夫した方が良い点などを述べ合い、相互評価を行うことで、**書く力・話す力を養う**。

成果・効果

- ・ポスターの字体やイラストなどを工夫することで、どのようにすれば魅力をアピールできるのか、**班で協力して考えることができた**。
- ・相互評価を行うことで、他の班の良いところを自分たちの発表に取り入れることができた。
- ・図書館を使って行うことで、大きなポスターでも全員で協力して作成することができた。また、**発表も行いやすかった**。



課題

- ・班で行うと、活動しない生徒が出てしまう。
- ・プレゼン方法について、事前に詳しく学習させることが必要である。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

白根高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年:国語「現代文B」2学年
- 単元名:家族化するペット
- 学習目標:
 - ・現実の家族の状況と家族ペットが求められる理由を考える。
 - ・ペットの家族化の必然性と社会的対応の必要性をまとめる。
- ・【図書館利用の授業内容】自分たちの身の回りの社会問題について調べて解決策をプレゼンテーションし、企画書にまとめる。
- 授業内容:
 - ①現代社会で挙げられる社会問題についてグループで決め、現状や現象について調べ学習をする。【図書館活用】
 - ②解決策や改善策をグループで考えさせ、模造紙にまとめる。
 - ③各グループでプレゼンテーションをする。【巡回式・交代で発表】聞き手は質問したり意見を言ったりする。
 - ④最後に企画書としてレポートにまとめ、自己評価を入れ、提出する。



成果・効果

- ・最初から最後まで自分たちが課題を探し、問題解決、評価までやったので生徒達はたいへん満足していた。充実していたという感想が多数だった。
- ・1人1人にプレゼンテーションの体験をさせた。2回行った者は最初の時よりもレベルアップしたプレゼンテーションをしていた。
- ・現代社会や世界史などの他教科で学んだ知識を応用して意見を言ったり、質問をしていたりしていたので、国語の教科の枠を超えた横断的な学びに繋がられた。
- ・模造紙のまとめに創意工夫があった。学校の目指す生徒像『社会に通用する人間として、自ら考え、プレゼンテーション能力を身につけた生徒』に近づけられた。

課題

- ・企画書として作成したので、実際に関係機関の方から企画書に対する意見などの現場の声が聞ければ、「社会に開かれた教育課程」として更に社会に繋がる意識で授業実践ができたのではないかと思う。
- ・調べたりまとめたりするのに時間がかかる。
- ・情報センターである学校図書館においてはIT環境の整備が重要である。

中央高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年:国語「現代文B」2、3学年
- 単元名:和の思想、間の文化
- 学習目標:
 - ・日本の年中行事を調べることで、日本人の「感覚」に気づくことができる。
 - ・相互発表を通して、自身の考えをより深めることができる。
- 授業内容:

日本の年中行事を調べ、それぞれの行事の特徴を挙げ、その中で共通している事柄をもとに、日本人の持つ「感覚」について考える。また、調べた内容を相互に発表し、自分の言葉で相手にわかりやく伝えられるように工夫する。

成果・効果

- ・年中行事を調べたことで、今までイベントとしてしか認識していなかった行事の意味や歴史を知り、理解を深められた。また、共通する事柄を考えることで、日本人の持つ「感覚」とは何かと考えることができた。
- ・図書館の様々な書籍や図鑑を見比べてよりわかりやすく相手に伝えようとする姿が見られた。



課題

- ・文字の情報量が多い書籍を避ける傾向があるため、文字情報から必要な情報を取捨選択する力の育成が求められる。
- ・発表の際、原稿を読むだけになってしまいがちである。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

甲府東高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「古典B」3学年
- 単元名：源氏物語
- 学習目標：
 - ・平安時代の風習や身分、生活、人々の生き方について調べることで、作品に表現された感情をより深く味わう。
- 授業内容：
 - ・薫、女三宮、八の宮、八の宮の娘達、平安時代の恋愛、遊び、人物関係図説明、などテーマごとにグループ分けし、それぞれで調べ学習を行い、その結果を3分で発表させる。互いの発表を合わせることで、教科書の宇治十帖に入る前の予備学習とし、なぜ薫が八の宮やその娘達に惹かれたのかなど主人公の感情を読み取る手がかりとする。

成果・効果

- ・あらかじめ源氏物語に関する書籍を集めておいて下さったため、**スムーズに調べることができた。**
- ・第3部についての事前知識ができたことで、**教科書の内容がスムーズに理解できた。**



課題

- ・少人数のクラスで2～3人1組で実施したため、班ごとに切磋琢磨し調べ学習もスムーズに進んだ。しかし、40人クラスで実施した時は、蔵書数などに限界もあり、グループによって士気に差が出た。

市川高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「古典B」2学年
- 単元名：随筆『方丈記』
- 学習目標：
 - ・「方丈記新聞」を作成することによって、作者の考えを知り、自らの人生や社会について思索を深める。
- 授業内容：
 - ・長明が挙げた5つの事例(大火、つじ風、遷都、飢饉、大地震)と長明の住まいの6テーマについて、班ごとに分担して調べ、新聞を作成する。長明の説く「無常観」を生徒同士で話し合いながらまとめることによって、読む力を養う。

成果・効果

- ・『方丈記』に関する**さまざまな資料(地図や絵巻など)**を利用することで、『方丈記』の**文章を深く実感**する様子が見られた。
- ・長明が体験した災害を調べることで、現代に生きる生徒たちが**自らの考えを互いに発言し合い共有**することができた。
- ・**図書館の大机**で活動することで、班ごとに**協力しやすい雰囲気**になった。



課題

- ・班ごとでの活動であるため、資料を活用し考える個々の能力をとらえることが難しい。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

都留高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「古典B」2学年
- 単元名：『史記』の世界を味わう
- 学習目標：
 - ・書籍の分類や配列を元に、さまざまな書籍を手に取り、必要な本を見つける方法を実践する。
 - ・中国史における価値観や美意識について調べ、日本との相違点について思いを巡らせる。
- 授業内容：
既習の「鴻門の会」に登場する人物や、当時の文化・武器などについて調べたり、後代の歴史書について調べたりしたことを、わかりやすく紙面にまとめることで、読む力を養う。

成果・効果

- ・大机を囲んで文献を共有することで、伝え合ったり、検討しあったりする作業が容易にでき、**協働的に学習を進めることができた。**
- ・他者の発表を聞き、**興味・関心を広げるきっかけ**となった。



課題

- ・活動について相互評価を取り入れたところ、文献や資料を「読む力」よりも、発表して「話す力」の面に偏りがちであった。

富士北稜高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：国語「現代文探究」2学年
- 単元名：語句・ことわざ・慣用句
- 学習目標：
読書に対する興味・関心と漢字や語彙力といった基本的な力を養う。また、文章全体をつかみ、その内容を要約文にまとめる学習をしながら、内容・主題理解を的確にし、論理的に現代文を読む力を養う。
- 授業内容：授業の前半にはプリントによる問題演習を行い、後半には「読書ビンゴ」を行った。プリントによる問題演習活動によって基礎学力を定着させると共に、「読書ビンゴ」により、様々なジャンルの図書に触れる機会を設け、それにより読書習慣の定着や、読書活動への興味を促す。

成果・効果

- ①十進分類法に基づき行うことで、普段手に取らないジャンルの本に触れる機会があり、**読書の幅が広がる。**
- ②継続して行うことにより、**読書習慣が定着している。**
- ③友達と読んだ本をオススメし合うことで、コミュニケーションの育成にもつながる。
- ④読書に苦手意識を持っていた生徒も、楽しそうに参加していた。



課題

- ・この取り組みを応用し、現代文探究・国語だけでなく他教科に対しても図書館利用を促していきたい。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

中央高等学校

取組の内容

- 教科「科目」・対象:国語 「国語基礎」(学校設定科目)3学年
- 単元名:新聞記事から幸福について考えよう
- 学習目標:
 - ・新聞記事を書き言葉として正確に書き写し、図書館の図書に興味を持ち、より多く読む。
 - ・新聞記事や図書館の書籍を読み、「幸福感」についての概念を短い言葉でまとめ、自分の「幸福感」を新たな視点でとらえる。
 - ・図書館の図書を通じ、「幸福感」について語っている心理学者や哲学者を知る。
- 授業内容:

図書館でできるだけ多くの図書に触れることで、知的好奇心を養い、様々な見方や考え方を知る。さらに、「幸福感」という一つのテーマについて様々な定義をホワイトボードに整理し、鳥瞰的に眺める。自分の「幸福感」を図書や他の生徒の定義と比較する。

成果・効果

- ・「幸福感」というキーワードで様々なジャンルの図書や新聞から探すことができた。
- ・図書館設置の大きなホワイトボードで漠然としていた内容が明確になった。
- ・「幸福感」を個人的なことから新聞の記事(国連の幸福基準)に発展して考えることができた。



課題

- ・生徒の読書離れもさることながら、新聞離れをも痛感した。情報センターの機能を持つ図書館をさらに利用するよう、生徒に指導すること。

地理歴史

- 甲府昭和高校(学校設定科目)
- 身延高校(学校設定科目)
- 日川高校(学校設定科目)

甲府昭和高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年： 地歴科「日本史探究」(学校設定科目) 3学年
- 単元名：日本史の諸課題の調べ学習
- 学習目標：
日本史の諸課題(時代・人物・事件)について、背景や結果を主体的に調べることにより、歴史の認識や意味を深め、歴史的思考力を養う。
- 授業内容：
 - ・自分の関心のある人物や事件をとりあげ、「テーマ設定の理由・背景(原因)・経過・結果」の基本的な流れに則り、図書室の書籍を使って調べる。
 - ・同じようなテーマの生徒たちがグループになり、話し合いをしながら、A4サイズ2枚のレポート用紙にまとめる。

成果・効果

- ・表面的な歴史的な理解ではなく、適切な主題を設定し、資料を活用しながら、深く探究することができた。
- ・主題設定→背景(原因)→経過→結果(影響)という一連の歴史的な見方や考え方の方向性をレポートを記述することにより身に付けることができた。
- ・関連図書を図書室の書架からすぐに手にすることができた。



課題

- ・調べ学習の時間だけで、8時間かかり、レポート提出だけに終わってしまったので、今後は生徒が発表できる機会を設けたい。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

身延高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：地理歴史「日本史研究」（学校設定科目）3学年
- 単元名：郷土史（研究活動）
- 学習目標：
 - ・自分が興味関心のあるテーマを見だし、歴史的経緯を踏まえて考察し、探求活動を通して「課題を解決する能力」を身につける。
 - ・歴史的文化や現象が、現代の人々の生活に結びつきを持っていることを理解する。
 - ・地域社会の歴史を学ぶことで、「郷土」を敬う心を養うと同時に、地域の諸問題について考察する力を身につける。
- 授業内容：
 - ・「武田信玄」などのテーマや、「郷土」の歴史について自主学習を行い、レポートの作成・発表・討論会をする。

成果・効果

- ・図書館で授業を行うことで、本を情報収集のツールとして意識づけすることができた。
- ・多数の情報収集ツール（本、インターネット）からの情報を、精査してまとめる能力が身についた。
- ・司書と生徒の調べているテーマを共有したことで、事前に本の場所を生徒に提示することができ、調べ学習の時間が増えた。（参考になりそうな本の場所を記したMAPを作成・配布した）

課題

- ・本が情報収集のツールとしての機能があるという「意識付け」ができたが、生徒全員が本からの情報を適切に読み解くことができていないと感じた。
- ・本や新聞を読ませる場所を提供しても、生徒自身の「情報抽出能力の向上」を推し量ることは難しい。

日川高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：地歴科「歴史地理課題研究」（学校設定科目）2年次
- 単元名：歴史的・地理的な見方・考え方を養おう。
- 学習目標：
 - ・11月に実施される修学旅行に向けて、訪れる地域（広島・岡山・香川・京都）の歴史と地理に着目し、自ら課題を発見し、探究活動を行う。
 - ・課題探究を行う中で、山梨県との関連を意識し、本県と比較することで、多面的な視点を深める。
- 授業内容：
 - ・図書館等を活用しながら、資料を作成・分析し、発表する。
 - ・発表資料を校内に掲示し、情報共有を行う。

成果・効果

- ・1年次で学習した地理歴史科目（日本史Aと地理Aの選択）の見方・考え方を取り入れた分析内容が見られた。例えば、事象からのアプローチである系統地理的考察、特に生活文化や観光について探究を深める生徒が見られた。
- ・課題を発見する中で、山梨県との関連を意識し、本県の状況を多面的に捉えさせることができた。特に、郷土史、人口や産業で考察を深める生徒が見られた。



課題

- ・調べ学習で終わってしまう内容も見られ、分析内容の深まりが課題。
- ・調べるツールとして、インターネットのみになる傾向が多く、文献・書籍等を積極的に活用する者が少ないことが課題である。

公民

➤ 都留興譲館高校(政治経済)

都留興譲館高等学校

取組の内容

- 教科「科目」・対象：公民科「政治経済」3学年
- 単元名：現代社会の諸課題
- 学習目標：
現代社会の諸課題について、氾濫する情報の中から自らが必要とする情報を的確に取捨選択して調べる能力を養う。
- 授業内容：
①地域社会の変貌と住民生活②産業構造の変化と中小企業③農業と食料問題④雇用と労働をめぐる問題⑤少子高齢社会と社会保障⑥地球環境問題と地球環境の危機⑦地域環境と資源・エネルギー問題⑧人種・民族問題⑨経済格差の是正と国際協力⑩国際社会における日本の立場と役割
以上から班ごとにテーマを設定し、調べ、レポートにまとめる。

成果・効果

- ・静かな空間で集中して調べ学習をすることができた。
- ・今後大学でレポートを作成するための正しい調べ方を学ぶ良い機会となった。
- ・諸問題について、自分達に何ができるか考え、話し合い、原因・対策を探ることができた。
- ・メディアリテラシーについて学ぶ良い機会となった。
- ・日本の未来を考えることが楽しかったと述べる生徒が多かった。



課題

- ・もっと時間があればより深い話し合いができたという感想を述べる生徒が多かった。このような時間を確保していくことは今後の課題である。

数学

- 甲府南高校(学校設定科目)
- 農林高校(学校設定科目)

甲府南高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年: 数学「数学開拓」(学校設定科目)
3学年文系
- 単元名: 数学 I A II B 課題演習
- 学習目標:
 - ・自分の考えや解答を論理的に他者に伝えることができる。
 - ・互いに教え合うことをとおして、各自が基礎・基本事項の理解を深め、積極的に問題解決を図る姿勢を育てる。
 - ・仲間の発表から、多様なアプローチや考え方のあることを知り、解答にグラフや図を用いることの有用性を理解する。
- 授業内容:(実施時数15時間)
 - ・事前に指示された問題をホワイトボードに解き、結論を導く上での考え方やポイントを仲間にレクチャーする。

成果・効果

- ・生徒同士が向き合う授業形態となるため、解法について**活発に議論することができた**。
- ・試行錯誤や規則性の発見など数学的に大切な手法に時間を割くことができた。
- ・時間を重ねるごとに、積極的に質問したり、教え合ったりして、理解を深めようという雰囲気が出てきた。



課題

- ・関連分野の文献を活用しながら、日常の事象と数学の関わりに触れ、生徒の知的好奇心を喚起する取り組みも行いたい。
- ・生徒個々の習熟の度合いの差が比較的大きいため、グループを作るうえでの配慮が必要となる。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

農林高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年： 数学「数学基礎教養」(学校設定科目)2学年
- 単元名：データーの分析
- 学習目標：
 - ・環境問題、食糧問題、人口問題など、自分の興味を持ったテーマを見つける。
 - ・テーマについて、数値化された統計をグラフ化し、他者の分かるように説明する。
 - ・課題設定の理由、考察をする。
- 授業内容：
 - 1時間目：社会の中で関心のあるテーマを探し、生徒相互間で話題を共有する。
 - 2時間目：統計をグラフ化し、B4用紙にまとめる。

成果・効果

- ・生徒の興味関心に応じた教材を利用することができるため、**授業への取り組みが、積極的になり、また、考えを深めることができる。**
- ・今後、このような授業を取り入れることで、生徒のプレゼンテーションの能力を引き出すきっかけになる。



課題

- ・生徒の興味関心が多岐に及ぶため、テーマを決めるのに時間がかかる。日頃から自分を取り巻く環境・社会に関心をもてるような働きかけをする必要がある。

理科

- 甲府西高校(生物基礎)
- 吉田高校(生物基礎)

甲府西高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：理科「生物基礎」1学年
- 単元名：免疫
- 学習目標：
 - ・免疫とはどのような働きか説明することができる。
 - ・免疫に関連する病気や薬について説明することができる。
- 授業内容：

アレルギーやインフルエンザなど身近な現象について、図書館資料を活用し、調査・まとめ・発表・相互評価させることで、論理的な思考力および、自ら疑問点を見つける力を養う。

成果・効果

- ・本を用いて調査する中で、「この内容がおもしろいからみんなに伝えたい」というような発言が出るなど、**主体的に学ぶ姿勢が多くの生徒に見られた**。また、その内容を伝えるために、教科書の内容とどのような関連性があるかを考えさせ、まとめさせることにより、**基礎的な内容の定着**を図れた。



課題

- ・本から必要な情報を得る力が欠けていると感じた。例えば、目次や索引を活用するなど基本的な本の使い方ができていない生徒が多く、普段の授業の中で教科書を用いて自分で調べる習慣を身につけさせる必要があると感じた。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

吉田高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：理科「生物基礎」2学年
- 単元名：生態系とその保全
- 学習目標：
 - ・教育目標である吉高GPの発信力、想像力を高める。
 - ・生態系の保全について深く理解する。
- 授業内容：
 - ・7班の専門家班を設定し、各自が専門分野に関する参考図書を選び、掘り下げ、まとめる。
 - ・専門家班で発表し、内容を広くかつ深め、正確性を高める。
 - ・班の要旨を30字にまとめてCMIにする。
 - ・専門家班でまとめたことを、ジグソー班で発表する。
 - ・全活動を通じた意見文を600字程度で作成し、新聞に投稿する。

成果・効果

- ・事後アンケートによると発信力38/39、想像力が高まった36/39であった。
- ・専門家班では、教科書や副読本の内容を踏まえた上で、より専門的な内容を調べ、地域の事例やグローバルな内容を発表することができた。
- ・ジグソー班では、外来生物、水質汚染、プラスチックごみなど多様な課題を知ることができた。
- ・図書室での活動では**大机での発表がしやすく、三角コーンを置いて場所の設定をすることで、班替えがスムーズにできた。**
- ・図書館の効果的な利用方法を復習し、実践することができた。
- ・調べて、まとめて発信することにより、**生徒が問題に対して自分で考えることにつながった。**

課題

- ・国語科の図書館利用や、総合的な学習の時間の探求など各教科等と絡めた、横断的なカリキュラム・マネジメントをしていくこと。



保健体育

➤ 富士河口湖高校(保健)

富士河口湖高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：保健体育「保健」1学年
- 単元名：現代社会と健康
- 学習目標：
 - ・1年間学習した中から興味や疑問をもったことを詳しく調べることにより、単元の知識・理解を深める。
 - ・図書館で授業を行うことにより、自分で調べ考える力を養う。
- 授業内容：
 - ・1年間の授業を通して関心をもった内容を決め、それについて詳しく調べる。
 - ・調べた内容は、B4用紙にまとめる。

成果・効果

- ・自分の調べたことをB4用紙にまとめることで、**理解を深められる生徒が多かった。**
- ・自分の作ったレポートを見せ合うことで、**互いに興味関心をもつ姿**が見られた。
- ・生徒達は**とても意欲的に**授業に取り組んでいた。



課題

- ・司書の先生と早めに計画を立てて実施すれば、さらに効率よく、必要な資料や情報が手に入ると感じた。

外国語

- 塩山高校(コミュ英Ⅱ)
- 上野原高校(コミュ英Ⅱ)

塩山高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年： 外国語「コミュニケーション英語Ⅱ」2学年
- 単元名： 地域の小学校との交流授業の準備
- 学習目標：
 - ・英語を使って積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。
- 授業内容：
 - ・英語を使った簡単な自己紹介とゲームを準備する。

成果・効果

- ・図書館の大机を少人数で使用することによって、PCが見やすく、教師の説明も理解しやすかった。
- ・各自の**アイディアを出しやすく、話し合いをしやすい雰囲気**が生まれた。
- ・図書館の書籍やPCを使って、調べながら交流授業の準備をすることができた。



課題

- ・準備に時間がかかるため、授業時間のやりくりが難しい。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

上野原高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年: 外国語「コミュニケーション英語Ⅱ」2学年
- 単元名: Washoku around the world
- 学習目標:
 - ・本文を通して、世界に広がる和食文化について理解を深める。
 - ・調べ学習で情報収集、発表活動を行い理解を深める。
- 授業内容:
 - ・世界中で楽しんでいる和食について知る。
 - ・外国人に伝えたい和食を各自が調べ、発表する。
 - ・級友の発表を聴き、内容を理解する。



成果・効果

・教科書の内容をきっかけに関心を広げ、**書物、PCなどを利用したり、友人等と話し合いをしながら**、自分が紹介したいと思う和食について考える機会になった。またそれを英語にする中で、**協力しながら学習することができた**。発表も一人一人が違う和食を紹介したので、飽きずに聞き取ろうとしていた。事後指導で自己評価をさせると、達成感や考えを言えた充実感を持つ生徒もいて効果的な学習だった。

課題

・発表活動に利用できるよう、プロジェクターなどの機器も準備できると視覚にも訴えられ、さらに利用しやすくなる。空間が広い分発表するには声が届かなくなるため、工夫が必要。

家庭

- 甲府第一高校(家庭基礎)
- 甲府東高校(子どもの発達と保育)
- 韮崎高校(子どもの発達と保育)
- 身延高校(生活と福祉)
- 甲府城西高校(学校設定科目)

甲府第一高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年:家庭「家庭基礎」1学年
- 単元名:これからの消費生活と環境
- 学習目標:・大量生産・大量消費・大量廃棄の生活により、環境問題が生じていることに気付き、消費生活と環境とのかかわりについて理解する。また、環境保全のためには、消費者の生活意識を改めることも必要であることを認識する。
- 授業内容:「甲府市のごみ(量及び処理費用)」をテーマとし、協働での調べ学習を通して気付いた問題について、課題を設定し、参考資料として図書館蔵書等資料・教科書の既習事項・生徒各自の家庭でのごみ実態調査報告書を利用して1200字の作文に考えをまとめたり、発表したりすることで、主体的に家庭生活を創造する能力を育てる。

成果・効果

- ・提示した資料から得られる甲府市と各自の家庭状況の比較検討・検証だけでなく、日本や世界のごみ問題についても言及する作文が多く見られた。
- ・例えば「家族・家庭」、「食生活」などの本単元以降の**問題解決的な学習内容において多角的・多面的な作文が多く見られた。**
- ・指導教員の印象として、**図書館蔵書等資料を協働学習で利用することで協働学習でのお互いの見方・考え方を尊重できる雰囲気**が養われた。



課題

- ・「問題発見能力」、「課題設定能力」、「課題解決能力」、「コミュニケーション能力」等の「思考力・判断力・表現力」という資質・能力を育てるための方法として、問題解決的な学習を一年を通して、また教科横断的に取り組むことが求められる。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

甲府東高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：家庭科「子どもの発達と保育」3学年
- 単元名：子どもの生活
- 学習目標：
 - ・乳幼児にとっての遊び(児童文化財)について体験し、共感する。
 - ・乳幼児期のアタッチメントについて必要性を学ぶ。
- 授業内容：

絵本の読み聞かせを交互に体験し、評価することによって乳幼児期の児童文化財の必要性や、アタッチメントの形成を知る。

成果・効果

- ・生徒が自ら選んだ絵本を用いた読み聞かせの体験を通して、**読み聞かせの効果や読み聞かせを行う際の留意点等を実感**することができる。
- ・絵本の良さを体感できる。



課題

- ・評価方法(見取り方)が難しい。
- ・絵本の種類や、選ぶ時のアドバイスについて学ぶことが必要である。

韭崎高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：家庭科「子どもの発達と保育」3学年
- 単元名：子どもの遊びと生活(身近な児童文化財)
- 学習目標：
 - ・子どもにとって絵本は、豊かな心や多くの能力を育成するために大切な児童文化財であることを理解する。
 - ・子どもの発達段階に応じて、適切な絵本を選択し、読み聞かせをすることができる。
- 授業内容：

司書に講師を依頼し、絵本の読み聞かせについての授業を実施した。年齢に応じた絵本の選び方、読み聞かせのポイントなどを学んだ後、生徒同士で読み聞かせを体験し、事後評価を行った。

成果・効果

- ・図書館には、**年齢に応じた絵本が用意**されており、発達段階にあった絵本を選ぶことの重要性を理解できた。
- ・**実際に絵本に触れ、その魅力を感じる**ことで、乳幼児にその楽しさを伝えたいという気持ちが強まった。
- ・**司書の専門的な指導**により読み聞かせの基本を理解し、技術を高めることができた。
- ・この学習で学んだ内容を、乳幼児との交流や保育検定に活かすことができた。



課題

- ・人数が多いと指導が難しく、少人数で行う選択授業に限られる。
- ・多くの絵本に触れるためには、他校や地域の図書館との連携も積極的に進めるべきである。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

身延高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年： 家庭「生活と福祉」3学年
- 単元名：高齢化の現状と高齢者の特徴 など
- 学習目標：
 - ・高齢者福祉に関する学習を行い、その内容に興味関心を持つとともに社会生活と関連させることで、より理解を深める。
- 授業内容：

単元の終わりに、図書館に保管されている新聞記事の中から学習したことに関連したものを探す。そのことにより、学んでいることが実際に社会生活の中でどう取り扱われているか知り、理解を深める。

成果・効果

- ・1回目は新聞のどこに高齢者に関する記事があるか分からず、探すのに時間がかかったが、何度か繰り返すうちに新聞への抵抗はなくなっていった。
- ・記事を読むことで新たな疑問が生まれたり、学習に意欲的になったりした。



課題

- ・記事に使われている漢字が読めなかったり、単語の意味がわからなかったりすることがあり、記事を理解できないことがある。
- ・他の授業と被った際には新聞を利用して別の教室で授業をすることもあり、図書等他の資料を活用する機会がなかった。

甲府城西高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年： 家庭科「子ども文化」3年次選択科目
- 単元名： 絵本の読み聞かせ
- 学習目標：
 - ・読み聞かせの効果を理解し、読み聞かせの手順を知る。
 - ・読み聞かせにふさわしい絵本の選択ができる。
 - ・絵本の適切な扱い方や表情豊かな読み聞かせができる。
- 授業内容：

山梨県立図書館より、講師を招き、読み聞かせの基本について、講義を頂き、生徒が自分が持参した絵本や図書館にある絵本で読み聞かせの練習をする。



成果・効果

- ・保育士、幼稚園教諭を目指す生徒を多く含む受講者にとって、読み聞かせの技術習得は大切なことであり、その講義を読み聞かせのプロの方に依頼することによって、**生徒の意欲・関心が高まり、より確かな技術の習得につながる。**
- ・教室とは異なる図書館の温かい雰囲気により、**生徒は想像力をかき立て、絵本の練習に取り組んだ。**



課題

- ・読み聞かせの技術を、すぐに活かす場面の設定が授業の中では難しい。

情報

➤ 中央高校(社会と情報)

中央高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年:情報「社会と情報」2学年
- 単元名:情報モラルと社会のルール
- 学習目標:
 - ・個人に関する情報の管理と保護について
 - ・情報を扱う責任とモラルについて
- 授業内容:

個人情報について、個人情報保護法に触れ、プライバシーの問題と個人情報の管理について、生徒に発問をしながら進めていく。また、情報の発信についても、注意すべきことを発問し、問題点を明らかにさせる。

成果・効果

- ・生徒に身近な単元であり、発問に対して、それぞれの意見を出し合い授業が進めることができた。
- ・個人情報の管理や発信についても、トラブルに巻き込まれないようにと進んだ考えも出てきた。
- ・図書館を使用して、授業を実施したので、**生徒もパソコン室とは違った雰囲気生き生きしていた。**



課題

- ・35人という人数も多く、図書館に半数ずつにした方が良かった。
- ・啓発の意味で、実際の被害例を扱った図書もあるので、多数利用しながら授業回数を増やしていく必要がある。

総合的な 学習の時間

- 甲府東高校
- 山梨高校
- 峡南高校
- ひばりが丘高校

甲府東高等学校

取組の内容

- 教科・学年:「総合的な学習の時間」1学年
- 単元名:課題研究「研究テーマ設定」
- 学習目標:
 - ・身近にある情報源(文献)から情報を集め、社会の課題を知る。
 - ・先行研究・事例を学び、研究テーマに関する理解と知識を深める。
- 授業内容:
 - ・社会の課題を知る。(グループでウェビングに取り組み、研究テーマを深める)
 - ・先行研究・事例を学ぶ。(図書館の文献から先行研究、事例を知り、研究テーマを深める)

成果・効果

- ・ウェビングに取り組む際、模造紙を広げることができる机が設置され、スペースがあるため、**作業効率**と**対話促進**に有効性がある。
- ・文献が身近で**手に取りやすい**。
- ・インターネット調査の前に文献調査をすると著者、テーマなどから**つながりを意識した**検索ができるようになる。



課題

- ・先行研究、事例を知ることにはできたが、一般化されたものが多い。生徒に課題を自分事として考えさせるために、新聞の地域欄を活用し、身近な地域の課題と関連づけることもできた。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

山梨高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：「総合的な学習の時間」2学年
- 単元名：国際問題について探求
- 学習目標：
 - ・図書室での授業を通し調べる力を養う。
 - ・自分の調べたことを他者に伝える力を身につける。
- 授業内容：
貧困、難民、児童労働、児童兵士、女性の権利について
図書・PCなどを活用しグループで調べる。
違うグループで調べたことを読みわかったことをまとめる。

成果・効果

- ・図書の中から自分で伝える内容をまとめ、人に伝える文章を書く機会が持てた。
- ・多くの国際問題にかかわることが出来た。
- ・授業前に図書館司書と打合せすることで、必要な教材をまとめて準備してもらえたため、授業を円滑に進めることができた。



課題

- ・次回はグループで意見交換などをして、さらに考えを深める機会を作る必要がある
- ・授業で学んだことを発展させるため、図書室を利用していく働きかけをしていく必要がある。

峡南高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：「総合的な学習の時間」1学年
- 単元名：工業系の職業を知る～図書館で調べよう～
- 学習目標：
 - ・『仕事とは何か』『働くとはどういうことか』について、知りたい情報を収集することができる。
 - ・収集した情報を、他者にも伝わるよう、まとめることができる。
- 授業内容：『仕事』『働く』というキーワードの下、金曜の⑤⑥校時を2週分充てて実施した。まず、全体で教頭先生の講話を聞いた後、クラス毎に、卒業生が書き置いてくれた進路アドバイスを読み、ものづくりの国際競争で奮闘する日本人技術者たちを取り上げたTV番組を視聴し、そして図書館で、工業系の仕事や資格に関する調べ学習を行った。

成果・効果

- ・関連する他の活動と同時に進めることで相互補完的に、学習効果を高めることができた。
- ・スマートフォンやタブレットによる情報検索に慣れている生徒たちであるが、必要な情報を自分で探し、更にまとめるという活動によって、生徒が自ら潜在的な力を引き出し得た。
- ・工業系の仕事や資格について調べることも、生徒の要求にマッチしていた。



課題

- ・図書館利用のローテーションを組むため、調べ学習に至るまでの関連活動に多寡が生じる。他の活動を終えないクラスほど、意識が十分に高まらないことが懸念される。スマホやタブレットで検索するより手間も掛かるので、調べ学習がなかなか進まない生徒がいる。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

ひばりが丘高等学校

取組の内容

- 教科「科目」・対象：「総合的な学習の時間」夜間部3学年
- 単元名：進路について調べる
- 学習目標
 - ・最終年次を来年に控え、3年次のうちから卒業後の進路について学習し、同時に自分の適性について知る。
- 授業内容
 - ・図書館の蔵書を使って、様々な職業について調べたり、図書館に設置されているパソコンを活用して、自分の適性について調べたり、専門学校について調べる。

成果・効果

- ・生徒は、わからないことがあった場合にインターネットを使用することについては慣れていても、何を調べなければならないかについてはよく理解できていないため、教師が側において指導しながら書籍を使ったり、パソコンを使ったりできる環境が整っている図書館での学習は効果があった。

課題

- ・定時制である本校では、なかなか生徒が足を運ばない現状があるため、授業で図書館を使うだけでなく、生徒を図書館に向かわせる取り組みを進めていく必要がある。

その他

- 甲府南高校(学校設定教科「スーパーサイエンス」「フロンティア探究Ⅱ」)
- 甲府工業高校(科学写真の展示)
- 巨摩高校
(学校設定教科「教養」「時事問題研究」)
- 上野原高校(福祉)
- 山梨英和高校(聖書)

甲府南高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年:
スーパーサイエンス「フロンティア探究Ⅱ」2学年文系
- 研究テーマ:
私たちの日常の生活や社会に関わる諸問題
⇒福祉、生活、歴史、政治、教育、科学、文学、農業
- 学習目標:
地域や社会の課題を発見し、
調査・研究を通して解決に
導く方法を身につける。
- 授業内容:(実施時数30時間)
グループ毎のテーマに沿った
調べ学習



成果・効果

- ・生徒同士が、好奇心をもって研究テーマと向き合い、**活発に議論を交わしながら研究を深めることができた。**
- ・書籍や新聞、インターネットを用いて効率のよい資料収集が可能となり、**調べ学習には最適な環境が提供できた。**
- ・本の探し方や引用の仕方に慣れ、自分の意見の根拠となる理論や客観的事実を提示することの大切さを理解できた。

課題

- ・図書館を活用する授業と頻度が年々増加し、利用に際しての調整が難しくなりつつある。
- ・資料や文献の収集および引用に終始せず、活発に議論を行い、意見集約する時間を確保する必要がある。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

甲府工業高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：理科「科学と人間生活」1学年
- 単元名：課題研究（科学写真）
- 学習目標：
 - ・動植物の生態その他の自然現象について興味や関心を高める。
 - ・物事を科学的に注意深く観察する態度を身につける。
- 授業内容：

生態や自然現象の写真を、科学の視点から見る練習を行う。

夏期休業中に「科学写真」の撮影を課題とし、説明文と共に提出させる。クラスで各作品を発表し、科学写真展（県立科学館主催）に出展する。入賞作品は図書館に展示する。

成果・効果

- ・動植物の生態や自然現象のほかに、自分で実験した結果を撮影したものや、授業で扱わない内容を題材とした作品があった。1年生に対しての取組みだったが、2年生の一部は自主的に作品を提出してきた。夏期休業の課題だが、冬期休業明けに作品を提出する生徒もいた。**生徒の興味関心を高めたとと言える。**
- ・クラス発表や優秀作品の展示は、**自分にはない視点を知るよききっかけになる。**



課題

- ・授業中に詳しい説明をする時間を確保するのが難しい。全員にきちんと趣旨を理解させ、取組ませることが課題と言える。

巨摩高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：学校設定教科「教養」「時事問題研究」3学年
- 単元名：新聞を読む。
- 学習目標
 - ・10日分の「政治経済、社会、くらし、スポーツ、科学IT」等のいずれかの分野から3大ニュースを選び出せる。
 - ・ワークシートに記入して、他の班員にわかるように、また関心を持たれるように発表できる。
 - ・選出基準（何が問題なのか。何が凄いのか）を説明できる。
- 授業内容：
 - ・図書館に10日分ずつ綴じてある中央紙3紙と地方紙1紙を各テーブルに配付し、班（3～4人）ごとに閲覧し、班ごとに話し合いながら分野を決め、3大ニュースを選ぶ。
 - ・ワークシートに、「選出基準」「見出し」「リード文」「問題点・意見」を記載し、他の班員の関心を得られるよう工夫して、発表する。
 - ・他の班は、不明な点やもっと知りたいこと等を質問する。
 - ・どの班の発表が良かったかを、評価シートに記入し、発表する。

成果・効果

- ・図書館の広い机を活用できた。
- ・時事問題についての関心を広めるとともに、**自分たちの言葉で問題を共有することができた。**



課題

- ・年間の指導計画の中での位置づけよりを明確にする。
- ・効果的なプレゼンテーションをするために、ICTの活用を進める。

平成30年度 学校図書館を活用した授業実践事例

上野原高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：学校設定教科「キャリア」「福祉」3学年
- 単元名：福祉「上野原高校の弱点を考えよう」
- 学習目標：
 - ・上野原高校が避難所になったとき、必要となるものを考える。
 - ・体が不自由な人が過ごしやすい環境について理解し、現在の学校に足りていない部分はどこかを考える。
- 授業内容：
 - ・災害時に必要となる物や、あると便利な物について知る。
 - ・バリアフリーについての理解を深め、上野原高校に必要な物は何かを考える。
 - ・グループに分かれディスカッションを行い、全体に発表する。

成果・効果

・災害時の手記や、新聞記事を読むことでより深い学習に結びついた。特に、高校生の書いた作文集が心に残った様子で「自分たちには何が出来るか」考えることが出来ていた。また、「もし新生入生に肢体不自由の生徒が入学した場合」現在の上野原高校に足りていない部分について、福祉関係の書物を参考にグループで話し、より過ごしやすく社会にする為にはどうしたら良いのかというところまで考えることができ、「福祉」選択者にとって意味のある授業になった。

課題

・話し合いが活発に行われているグループとそうでないグループの差が大きく出てしまった。時間を掛けて調べ学習を行い、活発な討論にしていきたい。



山梨英和高等学校

取組の内容

- 教科「科目」学年：「聖書」1学年
- 単元名：教会
- 学習目標：
 - 教会とは何か、キリスト教とは何か、キリスト教学校に入学した高校1年生が基礎的な知識を学び、身近にある教会やキリスト教を主体的に考えることを目的とする。
- 授業内容：
 - 教会とは何かの定義、教会の誕生を記す聖書箇所、教会誕生までの流れ、なぜ日曜日に礼拝するか、献金とは何か、聖礼典とは何か、教会の3つの大きな流れ(カトリック・プロテスタント・東方正教会)を学んだ後、この授業から図書室を利用して教会・キリスト教に関連するテーマを自分で選び調べ、自分以外の作品も鑑賞した。

成果・効果

・教会建築 教会音楽 教会の礼拝 クリスマス・イースター・ペンテコステ キリスト教と絵画など、自分で興味のある分野を選べた。
・なぜ調べたいのかテーマを選んだ動機を記し、調べをしてわかったことや考えたこと感想などをまとめることができた。
・自分以外の作品を鑑賞し新しく学んだことや感想を記すことができた。
・キリスト教関連の本を自主的に借りていく生徒が増加した。



課題

・作成期間が定められているため、じっくり書籍に親しむことが難しくなり、知識を深めることにつながりにくい。ただ膨大な知識の入り口に立つきっかけになればと肯定的に見れば言えるかもしれない。